

実践事例 3

書字に苦手意識のある児童への音声入力機能の活用②			
キーワード	生活単元学習、進学、音声入力、W i f i - D i r e c t 接続 書字への苦手意識の軽減、表現力、主体的な思考		
学年 領域・教科	小学部6年 生活単元学習	単 元 名	レッツゴー中学部
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・メモ（標準搭載） ・音声入力機能（標準搭載）		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・メモ（標準搭載）は様々なことをメモ帳感覚で使用できる。 ・音声入力機能（標準搭載）は、メモ、メール、s a f a r i などの標準アプリの他、キーボードを表示するほとんど全てのアプリで音声での文字入力ができる。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部主事へのインタビューに向けて、中学部に関する質問事項を考えてまとめる。 		
I C T 活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・書字への苦手意識を軽減し、中学部主事への質問を考えることに集中できるように、考えた質問の内容を音声入力機能でメモに入力する。 ・音声入力した質問の一覧は、入力後、i P a d と W i f i - D i r e c t 接続したプリンターで、その場ですぐに印刷する。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① i P a d を使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・この学習を手書きで行った場合、書字への苦手意識から、質問事項をまとめる学習に意欲的に向かうことができなかつたと考えられる。 ② i P a d 使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・音声入力機能を活用することで、苦手意識が取り除かれ、「書くこと」ではなく「考えること」に集中できた。 ・そのため、「制服のネクタイは結ぶタイプですか?」「作業学習で作る物は、自分で決めることができますか?」など、11項目の質問を考えることができた。 ・「制服のネクタイは結ぶタイプですか?」という質問を中学部主事にしたことにより、次年度から、結ぶタイプのネクタイも採用され、児童生徒の社会自立の一助となった。 			